ことばのおたより

一般財団法人　三宅医学研究所
てふてふ

令和５年８月

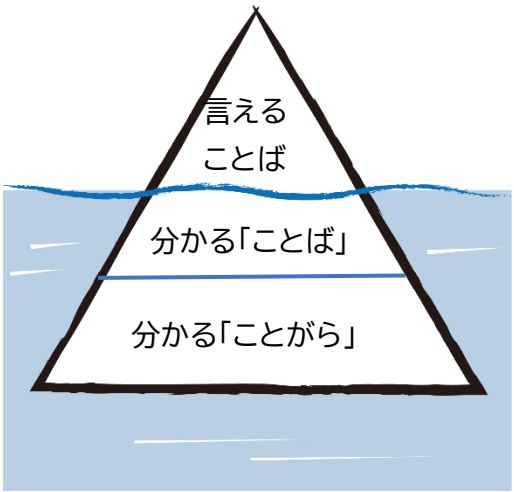
今年も暑い暑い夏がやってきました。夏バテしていませんか？

てふてふで育てている夏野菜も大きく育ち、収穫できているようですね。子どもたちも暑い季節ならではの経験をして、グングンと成長する夏になりますように。

６月のことばの教室で新聞遊びをしました。１人に１枚、新聞を配ると、私たちが声をかける前から新聞のガサガサという音で遊びはじめた感性豊かな子どもたちの姿に驚きました！８月も引き続き、感触遊びをします。今度の素材は「泡」。みんなで泡を作り、フワフワ、シュワシュワとした感触と、触れるとなくなってしまう不思議な性質を楽しみたいと思います。

今度も食紅や絵の具で色を付けますので、汚れても良い服装の用意をお願いいたします。

言葉の氷山モデル



子どもは状況と言葉を繰り返し経験することで言葉の意味を理解します。理解している言葉が増えると、おしゃべりが始まり、使ったことのある言葉を組み合わせて2語文、3語文で話すようになっていきます。子どもの頭の中には、使っている言葉の何倍もの「知っている言葉」があり、「この言葉おもしろいな」「話すって楽しいな」という気持ちが育まれることで、言葉は発達していきます。

子どもと同じものを見ながら話しているとき、子どもが大人にもっと詳しく伝えたそうなときは、ひとつ言葉を付け足して、会話をつなげてあげてください。「よいしょ」などの掛け声や、「ポイ」などの擬態語、擬音語はイメージしやすく、リズムが楽しいため、語彙を増やすステップとなり、声に表情や抑揚をつけることを獲得していきます。ぜひたくさん使ってくださいね。

五感を使った経験に言葉を添えて、言葉の土台を育てましょう